



健康創造住宅ニュース

2006年 8月号

1. 秋には河原で芋煮会！

まだまだ、暑い日続きますが、暦の上ではすでに秋。今回は、一足早く秋を取りした話題を提供いたします。

東北地方、特に山形県・宮城県の秋の風物詩といえば、芋煮会。毎年9月から10月にかけて、あちらこちらの河原で芋煮会を楽しむ家族や、グループを見かけます。そんな芋煮会の基礎知識を始め芋煮のレシピを紹介しながら、芋煮会の楽しみ方をお伝えします。



山形県や宮城県では秋になると、いたるところでこのようなぼりが見られます。

<< 芋煮会って何？ >>

芋煮会(いもにかい)とは、東北地方独特の季節行事で、秋に河原などに集まり鍋料理を作り食べる行事です。東北の秋の風物詩となっています。(花見みたいな感覚でおこなわれている)

発祥地の山形県やその隣県宮城県においても盛んであるが、近年では福島県、秋田県、新潟県も伝播しつつあるようです。親睦を深める行事として、家族・友人・地域・学校・職場で行なわれます。



昨今の芋煮会事情

山形県や宮城県では秋になると、コンビニの前にまでうす高く薪が積まれて販売されています。他の地方から来た人々からすれば異様な光景であるが、当地の人間にとっては秋の日常風景で、何ら違和感を抱かれていません。一般的のスーパーや大学生協などでは、食材の販売はもちろん、芋煮に必要な鍋の貸し出しが行われています。一部では、指定した場所まで宅配サービスを行う業者もでてきています。

<< 日本一の芋煮会 >>

芋煮会シーズンの先駆けとして、芋煮会の本場である山形市で「日本一の芋煮会フェスティバル」が開催されています。(平成18年9月3日開催)

山形市内の馬見ヶ崎河川敷を会場に、1989年(平成元年)以来、毎年9月の第1曜日に行われているもので、直径6mの大鍋に約3万食の芋煮が作られる。調理する際には大がかりな鍋に対応して大型重機(バックホー)を用いています。このバックホーは油圧系にわざわざ食用油を用いており、衛生上問題ないよう配慮されています。

ちなみに芋煮会フェスティバルで使われる6mの芋煮鍋は野外に置かれているので芋煮会フェスティバル前に鍋を洗う作業が行われますが、地元山形では「芋煮会フェスティバル用の芋煮鍋洗い」が季節の風物詩として地域のニュースになっています。



<< 山形県と宮城県の芋煮会 >>

隣接県であり人の交流も多い山形・宮城の両県ですが、両県人が合同で芋煮会をするとかならずどちらの芋煮がうまいか討論になります。

これは、宮城県側の「味噌味」「豚肉」愛好と、山形県側の「醤油味」「牛肉」愛好の違いがあるのですが、特に芋煮の発祥地と称する山形県人には、宮城県式の芋煮を邪道であるとまで評するものもあります。この指摘にはもちろん宮城県側からの強い反発もあります。但し最近では、宮城と山形の両県が高速交通網で繋がれ、交流が多くなると、時として、複数の鍋を作り、宮城風・山形風の両方を愉しむ新しい傾向が生まれつつあります。

<< 芋煮の作り方 >>

～ 宮城県バージョン ～

■材料(4~5人分)

- ・里芋12個
 - ・豚肩ロース肉300g
 - ・にんじん150g
 - ・ごぼう150g
 - ・しめじ、椎茸、舞茸など1パック
 - ・こんにゃく 1枚
 - ・ねぎ1本
 - ・仙台味噌100~150g
 - ・みりん 大さじ2
- 里芋は皮をむき、大きければ2つくらいに切れます。



■作り方

豚肉は2~3cm幅に切れます。
ごぼうは皮をそいで乱切りにし、水にさらします。
しめじ、まいたけは大きめにさきます。
こんにゃくは一口大にちぎります。
ねぎはぶつ切りにします。

1. 大鍋にしめじ以外の材料とみりん、味噌の半量、水8カップを入れて中火で煮ます。
2. 柔らかく煮えたら、ぶつ切りにしたねぎとしめじ、残りの味噌を入れて、一煮立ちさせます。

～ 山形県バージョン ～

■材料(5~6人分)

- 里芋: 約600g(大きいものは一口大に切れます)
- こんにゃく: 2枚(手で一口大にちぎっておく)
- 長ネギ: 2本(ななめ切り)
- 牛肉: 約600g(赤身よりも多少脂身のまざっている方がよい)
- 醤油(だし入り): 300~400cc
- 砂糖: 大さじ2~3
- お酒: 約300cc



■作り方

1. 里芋は水洗いをして、食べやすい大きさに切る。
 2. こんにゃくは、手で一口大に切る。
 3. ネギは、大きく斜めに切る。
 4. 牛肉は、4~5cm幅に切る。
 5. 水を鍋に入れ、里芋、こんにゃく、日本酒、醤油少々を入れて里芋が柔らかくなるまで煮る。
 6. 里芋が柔らかくなったら牛肉を入れ、灰汁を取りながら醤油と砂糖をお好みに合わせ味を整え一煮立ちさせる。
 7. 最後にねぎを加え一煮立ちしたらできあがり。
- ワンポイントアドバイス :しめじや舞茸など季節のきのこを加えるとさらに美味しいいただけます。

2. 元泥棒の回顧録 ~体験談から探る防犯対策~

「私は12歳で盗つ人の道に入り、30歳代半ばまで“稼業”としていた。その間3回つかまり、延べ10年以上にわたって服役した。ひょんなことから数年前、警視庁のある警視に防犯活動への協力を要請された。どうしてもと頼まれたので、印象に残るいくつかを告白することにした」
こんな出だしで始まる泥棒の回顧録。その中でも、皆様に是非注意してもらいたい事例を、ピックアップいたします。

ケース1 なかなか見抜けなかったラジオを使った在宅装い



私が推薦する留守中の泥棒よけは、窓にレースのカーテンを引き、かすかに外に音が漏れるくらいにボリュームを絞ったラジオを、外から見えない場所に置いておくことだ。名古屋市内の戸建て住宅を狙ったときに学んだ。

私は行き当たればたいて実行せず、何度も下見する慎重な泥棒だった。その家にも幾度も通り、夫婦共働きで、二人とも朝出勤することをつかんでいた。そこで昼間行ってみると、いつも人の声がぼそぼそと聞こえてくる。不思議に思いながら、侵入をためらう日々が続いた。

あるとき、それが人の声ではなくラジオから聞こえてくる音だと気づいた。だが、本当に人がいないか、まだ確信が持てなかつた。

留守かどうかをインターホンで確かめる泥棒がいると聞くが、私はインターホンを信用しない。インターホンを押しても、居留守を装う人が多いからだ。

私がよく確認に使った方法は、窓に小石を投げることと、葉がついた小枝で窓をたたくこと。人がいると、大概、様子を見に来る。この家でも実行して、反応がなかったので、安心して1階の窓から侵入した。

ケース2 立ち話の最中に連続4件の侵入に成功

今回紹介するのは、一度に4軒の住宅に侵入したときのことだ。4軒中の3軒は平屋の住宅だったので、勝手口のドアの錠破りという同じ手口で侵入した。4軒にかかった時間はわずか15分足らず。犯行時間は午前10時ごろ。狙いをつけていた家の勝手口から入って札束を探したが、1軒目では2万円だけしか見つからなかつたこともあり、2軒目にもお邪魔することにした。

2軒目はテレビ台の引き出しに6万円が隠されていた。この額なら引き上げてもよかったです。ただし、外で4~5人の女が立ち話をしていることに気づいた。かなり盛り上がっている様子だ。「このすきに侵入できるかもしれないぞ！」

隣の家は玄関前に掃除用具が出ていて、引き戸が開いたままだ。女たちはその隣の家の玄関先でペチャクチャやっている。この2軒を次のターゲットに決めた。

勝手口の木製ドアには円筒錠が付いていた。円筒錠はマイナスドライバーが1本あれば、ほとんど傷つけることなく、2分足らずでかんぬきをはずすことができる。ドライバーをドアと枠のすき間に差し込み、ちょっと力を入れる。空き家や捨てられたドアでさんざん練習した。3軒目は、仮壇の引き出しから現金20万円を頂戴した。

4軒目は比較的新しい2階建ての持ち家だ。勝手口のドアは前の3軒より頑丈そうだが、2階は侵入してくださいと言わんばかりの状態だった。窓は開け放し。バルコニーには足場となる縦桟や、身を隠すための洗濯物がちょうどいい具合にセットされていた。4軒目では、現金4万5000円をベッドの上のバックから見つけだした。



同じタイプの家が立ち並ぶ密集住宅地は、連続して侵入される恐れがある

ケース3 堀の中で教わったホームセキュリティー狙いの手口

警備会社のステッカーを張っている家には何度か侵入したが、警備員につかまることはない。金持ちをアピールしているようなものなので、避ける気持ちより、やる気をそそられた。当時、よく目にしたのは、監視カメラや赤外線センサーだ。どこを監視しているかは見ればわかるし、裏手や2階には設置していないことが多かったので、避けて入ることは容易だった。

私はセンサーに触れて警報を鳴らしてしまったときは、盗みをやめて一目散に逃げ出すことにしている。だが、警報が鳴っても気にせず作業を続ける泥棒もながにはいた。堀の中で知り合った、外国人窃盗団のボスのKがそのタイプだった。ホームセキュリティーが入っている家ばかりを狙い、機器はすべて壊してから逃げるなど、いろいろな手口をこのとき聞いた。Kは「ホームセキュリティーを入れている家のほうが、入れていない家より安心して犯行できる」と話していた。警備会社に通報が届いてから警備員が駆けつけてくるまでの所要時間を、ほぼ予測できるからだ。事前の下調べでわざと警報を鳴らし、何分で到着するかを確かめていた。

Kたちは4人グループでいつも行動していた。1人は見張りとして車で待機し、3人が侵入する。センサーや防犯カメラにひっかかりにくくするために腰をかがめてゆっくり動き、機器を見つけたら壊すか持ち去る。電話線は切断する。ゴミ箱から機器を発見したこともあったという。

「機器を壊したら、警備会社が異常に気づいてすぐにやって来るのではないか」とKに尋ねたことがある。「到着するまでにどんなに早くても5分以上はかかるので、来る前に立ち去る」と教えてくれた。



瓦を留めている針金をドライバーではなく、滑りにくい場所を選んで瓦を置いた。下地のベニヤ板を持ち上げてつかえ棒で支え、足から侵入したこと。

ケース4 一度侵入した家は再び狙われる

同じ家に複数侵入した経験はいくらでもある。2回はざらで、一番多かったのは4回だ。侵入すればその家の大概のことがわかるので、せっかく仕入れた情報をまた使わないのはもったいない。住まい手側も、2~3ヶ月は警戒心を強めるが、半年も経つと元の生活に戻ってしまうことが多い。

ただ、一度侵入して成功した家でも、また狙いたくなる家と二度と行きたくない家がある。前者は、初回に容易に侵入できて、室内や外まわりが散らかっている家。侵入されたこともしばらく気づかないような、すぼらで大ざっぱな住まい手が多い。

逆に、掃除や整理整頓が行き届いていて、最初の侵入でかなり神経を使った家は後者に当たる。住人の性格を知ることも、下見段階の重要な仕事になる。

一度侵入されると、侵入された個所や1階に力技をかけたり格子をつけたり、住まい手はある程度防犯性能を高めるが、2階など侵入に使わなかった部分はそのままにしていることが少なくない。これでは防犯対策として不十分だ。二度目に行くと警備会社のシールが張られていることもあったが、だからといって侵入をあきらめたことはない。



